



## 世界自閉症啓発デーシンポジウムに寄せる国連事務総長からのメッセージ

第9回世界自閉症啓発デー2017日本シンポジウムに参加される皆様にご挨拶ができますことを嬉しく思います。

本日の世界自閉症啓発デーは、

- ・自閉症のある人が、他の誰もと同じように市民としての権利を主張することや、
  - ・自分自身の意思や選択によって生活する権利を助けるようにすることなど
- のために、私たち一人一人の姿勢を改める役割を果たします。

私たちは、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」での誓約を新たに思い出し、誰一人取り残さず、すべての国のすべての人々が、平和で豊かな社会に貢献することができるようにしましょう。

国際連合の「障害者の権利に関する条約」は、

法を前にした法的能力と平等の認識は、自閉症のある方々が、私たちの社会の一員として平等であることを享受する権利を生来のものとしています。

自閉症のある方々が自分達で選択するための自由と権利を求める運動は、

私達が自閉症のある方を支援することや必要な設備を利用できるようにすることを後押しします。また、自閉症のある方々が選んだ支援、必要としている支援に近づくことで、どこで誰と生活するのか、結婚するのかどうか、家族をつくるのかどうか、何の仕事に従事するのか、私的財産の管理をどのようにするのかといった、誰もの人生の中にある節目の時期の選択の際に自閉症のある方々の背中を押してくれるでしょう。

自閉症のある方々の自己決定や自律の平等な機会の確保が社会の中で実現したとき、我々の共生社会の実現に向けて、より強いプラスの影響を与える力となるでしょう。

2017年4月 東京 国連事務総長 アントニオ・グテーレス